

展 望

公開月例研究会講演記録〈第 304 回 (2020 年 11 月 21 日 開催)〉

第 304 回産業経営研究所公開研究会は、平成 30 年度から令和元年度までの 2 年間にわたり行われた本研究所が管轄する研究プロジェクトの一つである、呉逸良教授が研究代表を務めるプロジェクト「経済発展と競争」の研究成果の報告である。この研究プロジェクトには本学の研究者 4 名に加えて他大学の研究者 1 名が参加しているが、コロナ禍ということもあり、公開研究会では 5 つの研究発表がオンライン (Zoom) を用いて行われた。

古くから市場の信頼性に関する議論は価値観やイデオロギーの対立にまで広がりを見せる論争となってきたが、本研究プロジェクトではこうした問題に対して科学としての経済学の原点をふまえて多面的に分析を試みている。具体的には競争が促進すべき資源配分の最適性と不完全市場における社会厚生上の問題点を、①経済立地論 (呉論文「新シルクロードの部分的輸送インフラ改善と陸上輸送競争力」、竹中論文「直線立地モデルにおける整合的推測的変動均衡をめぐる考察」)、②契約理論 (小林論文「Collusion and competition」)、③不完全競争下での経済政策 (花田論文「日本における原子力発電の経済競争力の本質」、土井論文「都市ガス卸売市場における LNG 価格の比較検証」) の 3 つの視点から、理論と実証の両面で多角的な議論を展開している。

日本大学経済学部准教授
南 雅一郎

公開月例研究会講演記録〈第 305 回 (2020 年 11 月 28 日 開催)〉

第 305 回産業経営研究所公開研究会は、平成 30 年度から令和元年度にかけて実施した産業経営研究所の研究プロジェクトの一つである挽直治教授を中心としたプロジェクト「負債の諸相への会計学からの接近—負債のオン・オフバランス化をめぐる実態と検討—」の研究成果として開催された。本公開研究会には、本学から 6 名の研究者が参加し、新型コロナウイルス感染症対策としてオンライン (Zoom) により行われた。

6 名のそれぞれの研究領域である会計制度、財務報告、地方自治体の会計、それから会計史、管理会計、公会計を含む制度会計の視点に立って、負債という側面から固有の問題を取り出して究明している。財務報告としては、古庄修先生より「SDGs 債の開示フレームワーク—負債にかかる追加的視点—」をテーマに報告をした。会計制度は、挽直治先生より「引当金会計をめぐる負債の諸相」と題して、報告をした。会計史では、村田直樹先生が「社債をめぐる会計問題の史的展開—負債の諸相をめぐる問題に関する歴史的アプローチ—」と題して、報告をした。地方自治体の会計の視点からは、石川恵子先生が「統一的な基準に準拠して作成される財務諸表の負債情報の活用に向けた課題—実態調査の結果に基づく考察—」と題して、報告をした。管理会計としては、藤野雅史先生から「管理会計担当者のスキル構築—負債に関連する財務的意思決定を支援するために—」と題し、報告をした。最後に、今福愛志名誉教授に「プライベート・パブリックセクターの視点から負債をめぐる会計問題の諸相—負債をめぐるプライベート・パブリックセクターの会計問題への接近—」と題して、報告をした。6 つの研究領域の視点より、活発な議論を展開している。

日本大学経済学部准教授
オルシニ フィリップ